

タンデム自転車で広がる世界

だれもが自由に移動できる社会

鎗山善理子（あおぞら財団／大阪でタンデム自転車を楽しむ会）

1. 2人乗りの自転車「タンデム自転車」

- ・タンデム自転車は、座席やペダルが2つずつ縦に並んで設置された自転車で、複数人で乗車することができます。ハンドルやブレーキは前の席の人が操縦しますので、後ろの席なら、視覚障害者、知的障害者、足腰の弱い人も自転車に乗ることができます。
- ・自動車交通量が多く、大気汚染が問題となっている大阪・西淀川区では、自動車よりも自転車利用を促進しようと、あおぞら財団の活動として、「自転車まちづくり」に取り組んでいます。



- ・その中で、視覚障害者の自転車に対する声を聞いていくうちに、「私も自転車に乗ってみたい」という声があがりました。その言葉をきっかけに、障害をもつ人も乗れるタンデム自転車に着目し、この自転車を広げることで、自動車交通量を減らすだけではなく、より多くの人の移動の自由を実現できたらと思っています。2009年からは試乗会やサイクリングツアーを実施しながら、タンデム自転車の普及を目的に、「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」（事務局：あおぞら財団）を立ち上げ、現在にいたります。

2. 風を切って走るのが気持ちいい

- ・視覚障害者にとって、自転車はいわば「敵」です。ところかまわず駐輪してある自転車が歩行の妨げになったり、歩いている時にすぐ横をスピードを出した自転車が走ったり、ぶつかって白杖を折られたり、と悪いことばかり。しかし、自転車に乗る側になれば、自転車は移動・行動範囲を広げてくれ、運動やレジャーになります。2015年にあおぞら財団が実施した「タンデム自転車利用に関するアンケート調査」でも、「タンデム自転車を日常生活で利用したい」というニーズが結果として出ています（注1）。
- ・タンデム自転車に乗った視覚障害者の方は「風を切って走るのが気持ちいい」と言います。前と後ろでしゃべりながらペダルをこぐ。風、音、においを感じる。さらにそこに味覚が加わればもっと楽しいと、「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」で企画するサイクリングツアーでは、バーベキューやラーメンなど「食」も企画に入れるようにしています。

3. 要望を出して、交通規則を改正

- ・とはいえ、タンデム自転車はどこでも走れるわけではありません。現在、全国で16府県でのみ公道の走行が可能です。大阪では2016年8月までは一般道を走ることができませんでした。各都道府県の道路交通規則で走行できる自転車の条件が制限されているからです。大阪の場合は、後輪を2つ並べた形の3輪タンデム自転車は公道走行が可能でしたが、3輪タンデム自転車は車体が重いなど、乗りにくい面があります。そこで、「大阪でタンデム自転車を楽しむ会」では、2016年5月13日に大阪府公安委

員会に2輪のタンデム自転車の一般道走行を認めるよう要望書を提出しました。その後、大阪府警察総合訓練センターで、走行の検証がおこなわれ、8月1日付の規則改正につながりました。

4. いろんな自転車が走りやすい街に

- ・タンデム自転車は、数ある乗り物の中の一つです。障害を抱える人の移動を可能にするような乗り物が、さらに開発されることを期待しています。今は、普通の自転車でも車道を走行するには、恐怖感を覚えますし、車両とのコミュニケーションの取り方など、一定のテクニックが必要です。タンデム自転車は普通自転車よりも車体が長い、制動距離が長い、発進時にふらつくことがある、といったデメリットもあります。「だから、タンデム自転車は危ない」と言うのではなく、タンデム自転車でも安全に走れる走行空間を街中に広げていけたらと思います。



注1) 鎗山善理子、吉田長裕、藤江 徹「移動困難者を対象としたタンデム自転車の日常利用ニーズと課題」日本都市計画学会関西支部（2016年7月30日）